全国統一 小学生テスト 対策授業

国語 4年生

1 物語文の読み方

◆ **あらすじ、場面、情景を読み取ろう**

物語文を読むときには、どういう「場面」の話なのか、どういう「情景」がえがかれているのかを考えながら読みましょう。

① **あらすじ（ストーリー）をとらえる**

話のすじ（ストーリー）は、「**いつ**（時）」、「**どこで**（場所）」、「**だれが**（登場人物）」、「**どうした**（できごと）」の四点からしっかりと読み取りましょう。

② **場面のうつりかわりをとらえる**

「**いつ**（時）」、「**どこで**（場所）」、「**だれが**（登場人物）」、「**どうした**（できごと）」という四つの点からとらえた一つ一つのまとまりを「**場面**」といいます。話の流れ（**あらすじ**）を正確に読み取るには、場面から場面への変化（**場面展開**）を正確にたどる必要があります。「時」の変化、「場所」の変化、「登場人物」の入れかわり、「できごと」の変化などに注意しましょう。

③ **情景から登場人物や作者の気持ちを想像する**

ある場面の「様子」や「景色」、「その場の雰囲気」などをまとめて、「**情景**」といいます。「情景」描写は、場面の展開や登場人物（作者）の気持ちをそれとなく表しています。「情景」を思いうかべることができれば、登場人物や作者の気持ちを想像しやすくなります。

◆ **人物の気持ちを読み取ろう**

作者は、作品を通して自分の考えや理想を表現します。作者の伝えたいことを読み取るためには、登場人物の気持ちを読み取ることが大切です。

① 気持ちを**直接描写**している部分に注目する。

「心配」「うれしい」「悲しい」などの**気持ちを表す言葉**や、「～と思った（感じた）」などの表現からは、人物の気持ちが直接読み取れます。

② 気持ちを**間接描写**している部分に注目する。

人物の行動や動作、表情や態度、会話、まわりの情景などをえがくことによ

って、間接的に気持ちや心の動きを表現していることもあります。たとえば、「遠足の日の朝、降り続く雨を見たA子は思わず**ためいきをついた**」という場合、「A子は**がっかりした**」という直接描写に言いかえることができます。

③ できごとと気持ちのつながりを考える。

その人物がおかれている立場をつかんだうえで、どういう**できごと**がどんな**「気持ち」**をひきおこしたのか、その「気持ち」がどういう**「行動」**に結びついたのか、というつながりを考えて読むことが大切です。

できごと → 人物のおかれている立場（どんなできごとに出会ったか）

気持ち ← 想像

人物の反応 → 行動・態度・表情・言葉

人物の反応 ← 想像

◆ **主題をつかもう**

文章全体を通して作者が最も書き表したかったことを**「主題」**といいます。「主題」を読み取るときには、次のようなことに気をつけましょう。

- 「あらすじ」をしっかりたどること。
- 主人公の行動や発言に注目すること。

作者は、主人公を通して自分の言いたいことを読者に伝えようとしています。

- 話の山場（クライマックス）に注意すること。

話が一番もりあがるところは、作者が最も力を入れて書いているところなので、主題にかかわることが多くあります。

- 主人公の考え方、生き方を読み取ること。

作者の考え方や生き方が、主人公にうつしだされていることが多くあります。

2 文章問題にチャレンジ！

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

十二月も、なかばです。笛吹き山は、ふもとまで、もうまっ白です。
みつばちの巣箱のトタン屋根も、白くなっています。
ある朝、ナオシさんが、巣箱の見まわりにいくと、明け方ふった雪の上に、てんてんと動物の小さな足あとがついていました。

「ア たいへんだ！」

ナオシさんは、あわてて、巣箱をひとつひとつ点検しました。

たまにですが、ネズミやイタチがみつばちの巣をあらしにくることがあるのです。

でも、さいわい、どの巣箱にもあらされたあとはありませんでした。

「この足あとは、イタチだな。被害にあう前に、巣箱のまわりに金網をはりめぐらそう。」

ナオシさんは、さっそく、金網を買いに町まででかけました。

そうして、町から帰ってくると、ふたたび巣箱のところにいって、あっと声をあげました。イ 巣箱がひとつなくなっていたのです。

「しまった、やられた！」

てっきり、今朝のイタチのしわざにちがいないと思ったとき、ナオシさんは、近くに、そりのあとと、長靴のものらしい大きな足あとがあるのに気がつきました。

どうやら、だれかがやってきて、巣箱をそりにのせてもっていったようです。

もう、金網どころではなくなりました。

（いったい、だれが、ぬすんでいったんだろう。みつばちたちが、だいじょうぶなうちに、巣箱をとりかえさなくちゃ。）

ナオシさんは、おおいそぎでスキーをはくと、ウ 犯人のあとをおいかけました。

そりのあとは、雪の上に、しっかりとした二本の線をひいて、森のおくへとつづいていました。

やがて、森の木がまばらになって、大きなモミの木があらわれました。枝に雪をつけて、まるで、巨大なクリスマスツリーがたっているようです。

そりのあとは、モミの木のうしろにきえています。

（このへんに、こんなモミの木があったなんて、知らなかったなあ。）

ナオシさんは、モミの木に見とれながら、裏にまわって目を見はりました。

畑で見かけるようなビニールハウスがかくれていたのです。

中をのぞくと、小さな白い花がさいています。それは、イチゴの花でした。

ぬすまれた巣箱が、ビニールハウスのおくのほうにおいてあります。

みつばちたちが、巣箱からでて、花から花へとびまわっているのが見えます。

（なるほど、イチゴを受粉させるために、巣箱をぬすんだんだ。）

それにしても、このビニールハウスの持ち主はいったいだれでしょう。

中には、だれもいません。

（へんだな？）

ナオシさんは、あたりを見まわしました。

そりがないところをみると、どこかにでかけているようです。

（このすきに、巣箱をとりかえそう。）

ナオシさんは、いそいでスキーをはずすと、ビニールハウスの中にはいって、ほおっと肩の力をぬきました。

そこは、花のかおりとみつばちの羽音で、まるで春の野原にでもまよいこんだようだったのです。

ナオシさんは、**エ** たちまちおだやかな気持ちになって、さっきまでの怒りがどこかにいってしまいました。

（しょうがないなあ。場所もわかったことだし、巣箱、受粉がおわるまで、かしとくとするか。）

オ ナオシさんは、苦笑すると、暗くならないうちに、ビニールハウスをあとにしました。

ところが、それから数日して、ナオシさんは、［＊］しました。

ぬすまれた巣箱が、またもとの場所にもどっていたのです。

近くには、こんどもまた、そりと靴のあとがありました。

（きっと、受粉がおわったんで、かえしてよこしたんだな。）

しらべてみると、みつばちたちも巣箱も、だいじょうぶです。みつばちたちは、ひさしぶりに、しんせんな花のみつをすったせいか、前より元気になっています。

カ ほっとしたとたん、ナオシさんは、こんなことをしたひとのことが気になってたまらなくなりました。

（いったい、あのビニールハウスの持ち主はだれなんだろう？）

キ ナオシさんは、また、スキーをはくと、森にむかいました。

（茂市久美子「つるばら村のはちみつ屋さん」〈講談社〉より）

問一 ――線**ア**「たいへんだ！」（5行め）とありますが、このときナオシさんが心配していたのはどんなことですか。最もふさわしいものを、次から一つ選びなさい。

① 動物のせいで巣箱の見まわりにいけなくなること。
② どの動物がこの足あとをつけたのかわからないこと。
③ 雪がとけて、動物の足あとがすっかり消えてしまうこと。
④ 動物にみつばちの巣箱をあらされたかもしれないこと。

□

ヒント

「動物の足あと」がついていたので、ナオシさんは「あわてた」のですね。

問二　――線**イ**「巣箱がひとつなくなっていた」（14行め）ことに気づいたナオシさんの気持ちとして、最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。

① あきらめ　② 怒り　③ はずかしさ　④ 不思議

□

ヒント
「しまった、やられた！」という言葉から、ナオシさんの気持ちを想像してみましょう。

問三　――線**ウ**「犯人のあとをおいかけました」（23・24行め）とありますが、この後でナオシさんは巣箱をとりかえすのをやめようと思います。それがわかるナオシさんの言葉として、最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。

① なるほど、イチゴを受粉させるために、巣箱をぬすんだんだ。（36行め）
② へんだな？（39行め）
③ しょうがないなあ。場所もわかったことだし、巣箱、受粉がおわるまで、かしとくとするか。（49・50行め）
④ きっと、受粉がおわったんで、かえしてよこしたんだな。（56行め）

□

問四　――線**エ**「たちまちおだやかな気持ちになって」（47行め）とありますが、それはなぜですか。次の文の㋐～㋒にあてはまる最もふさわしい言葉を、後の①～⑨から一つずつ選びなさい。

・ビニールハウスの中では㋐がただよい、㋑が聞こえてきて、まるで㋒にいるような心地になったから。

① 冬の山　② 春の野原　③ 秋の高原
④ みつばちの羽音　⑤ 風の音　⑥ 雪の降る音
⑦ 人の気配　⑧ イチゴの白い花　⑨ 花のかおり

㋐ □　㋑ □　㋒ □

問五　――線**オ**「ナオシさんは、苦笑する」（51行め）とありますが、このときのナオシさんの気持ちを説明したものとして、最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。

① 巣箱を勝手にもっていかれた怒りはまだおさまらないものの、ビニールハウスの持ち主に好感を持ち始めている。
② 巣箱を勝手にもっていかれたことが悔しくて、ビニールハウスの持ち主にきっと仕返しをしてやると思っている。

③ 巣箱を勝手にもっていかれたことはまだ納得できないが、ビニールハウスの持ち主には親しみを感じている。
④ 巣箱を勝手にもっていかれたことがどうしても許せず、ビニールハウスの持ち主に対しにくしみを抱いている。

ヒント
直前で「しょうがないなあ」と言いつつも、「巣箱、受粉がおわるまで、かしとくとするか」と、これまでとはちがう気持ちになっていますね。

問六 ＊（53行め）にあてはまる最も ふさわしい言葉を、次から一つ選びなさい。
① びっくり　② すっきり　③ ふらりと　④ ひやりと

問七 ――線**カ**「ほっとした」（60行め）とありますが、ナオシさんはなぜほっとしたのですか。最もふさわしいものを次から一つ選びなさい。
① イチゴの受粉が無事に終わったようだから。
② みつばちたちが以前のまま元気だったから。
③ みつばちや巣箱が無事にもどってきたから。
④ 受粉がおわれば巣箱を持って行かれないから。

問八 ――線**キ**「ナオシさんは、また、スキーをはくと、森にむかいました」（63行め）とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを、次から一つ選びなさい。
① ほかのみつばちの巣箱ももっていき、しんせんな花のみつをすわせたかったから。
② みつばちの巣箱をこっそり借りてこっそりかえしてきたひとに、会ってみたくなったから。
③ ビニールハウスでみつばちたちがイチゴを受粉させているようすを見たくなったから。
④ ビニールハウスの持ち主に、みつばちたちが元気になる方法を教えてもらいたかったから。
⑤ ビニールハウスでさいていたイチゴの小さな白い花をもう一度見たいと思ったから。

ヒント
ナオシさんは、「あのビニールハウスの持ち主はだれなんだろう？」と、気になっていますね。

問九　この文章を時のうつり変わりに注目して二つに分けるとすると、後半の場面はどの行からになりますか。最もふさわしいものを、次から一つ選びなさい。

①　16行めから　②　27行めから　③　43行めから　④　53行めから

ヒント
「時のうつりかわり」とあるので、時間や日にちが変わっているところに注意しましょう。

3　説明文の読み方

◆ **接続語の働きを理解しよう**

接続語の種類と働きは、次のように分類されます。

① **順接**…前が原因や理由、後がその順当な結果や結論という関係でつなぎます。
　だから　それで　したがって　すると　そこで　など

② **逆接**…前で述べたことと反対のことやちがったことが後にきます。
　しかし　だが　けれども　でも　ところが　など

③ **並列**…前のことと後のことを同列にならべます。
　また　および　ならびに　など

④ **添加**…前のことに、後のことをつけ加えます。
　そして　それから　さらに　しかも　そのうえ　など

⑤ **選択**…前のことと、後のことのどちらかを選びます。
　または　もしくは　あるいは　それとも　など

⑥ **転換**…前のことの話題をかえます。
　ところで　さて　では　など

⑦ **説明**…前のことについて、後でくわしく説明します。
　換言・要約…前のことを言い換えたり、まとめたりします。
　すなわち　つまり　要するに　など
　補足説明…前のことを補って説明します。
　ただし　なお　など
　例示…前のことに対して、例をあげて説明します。
　たとえば　など
　理由・原因…前のことに対する理由・原因を述べます。
　なぜなら　というのは　など

◆ 指示語（こそあど言葉）を正しく読み取ろう

文章を読むときは、指示語の指し示す内容をきちんととらえることが大切です。指示語は、主に直前に述べた内容を受け、くり返しをさけて、後につなぐ言葉です。

指示語の種類

指すもの	自分に近いもの こ	相手に近いもの そ	どちらからも遠いもの あ	はっきりしないもの ど
ものごと	これ	それ	あれ	どれ
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向	こちら	そちら	あちら	どちら
ものごと	この	その	あの	どの
様子	こう	そう	ああ	どう
	こんな（だ）	そんな（だ）	あんな（だ）	どんな（だ）

◆ 話題と要点を正しく読み取ろう

① 話題を読み取る

説明文では、「あることがら」を取り上げて説明します。この**取り上げている「ことがら」**を「話題」と言います。ふつうは文章のはじめの方に示されています。「話題」を読み取るには、

- 「……について」という言い方に着目しましょう。
- 「問いかけの文（……でしょうか）」に着目しましょう。
- 「くり返し出てくる言葉」に着目しましょう。

② 要点を読み取る

説明文では文章全体がいくつかの形式段落に分かれています。それぞれの**形式段落のまとめ**にあたる大事な内容を「要点」といいます。「要点」を読み取るには、

- 「話題」と形式段落の内容との関係を考えましょう。
- 形式段落のはじめや終わりに書かれている「まとめの文（**中心文**）」をさがしましょう。
- 接続語（だから、したがって、つまり、要するに）や、指示語（このように、こうして）の後に着目しましょう。

◆段落の関係を考えよう

共通する話題や題材について書かれた、いくつかの文からなる小さなまとまりを「段落」といいます。

① 形式段落

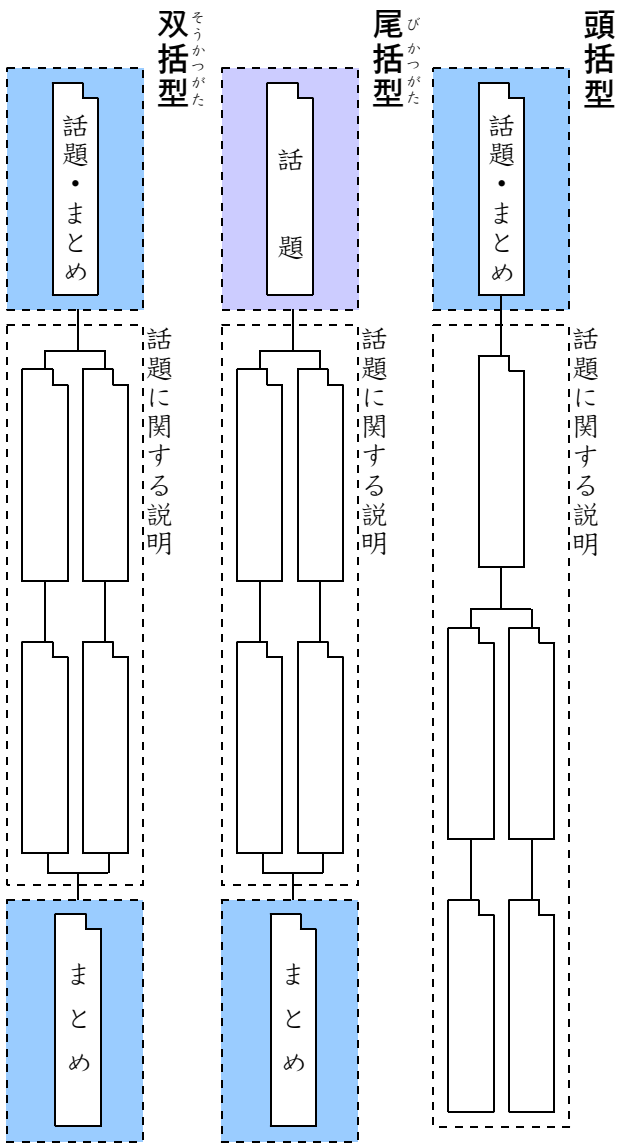
形の上での段落で、行を改め、一字分さげて書いてあります。各形式段落ごとに、「話題を示す」「結論を示す」などの役割があります。

② 意味段落

話題や題材が共通するいくつかの形式段落があつまって、内容のうえから大きなまとまりとなった段落です。形式段落の話題や要点が連続しているかどうか、ちがう話題にうつっているかどうかを考え、意味段落にまとめます。

◆文章全体の組み立てを考えよう

意味段落ごとの役割を考えると、文章全体の組み立てがわかります。「話題を示す段落」「結論を示す段落」「説明する段落」など、意味段落が文章の中でどういう役割をはたしているかをまとめてみましょう。



◆要旨を正しく読み取ろう

説明文で、筆者がその文章を通して最もいいたかったことを「**要旨**」といいます。「文章全体の話題（問い）」と「結論段落の要点（答え）」をまとめたものが「要旨」となります。

4 言語要素問題にチャレンジ！

◆ 文と文節

「。」から「。」のひとまとまりを「**文**」といいます。文を意味の上からも発音の上からもおかしくないように、できるだけ短く区切ったときのひと区切りを「**文節**」といいます。「文節」を見わけるには、「ネ」「サ」「ヨ」などをはさみこんでみるといいでしょう。

例　風が／ネ／はげしく／ネ／吹いた。

◎ 主語と述語

主語と述語は、文の骨格を作る大切なものです。

① 主語…「**何が**（は）」「**だれが**（は）」にあたる言葉を「**主語**」といいます。
主語は、原則として一文節です。
「ぼくは」「すずめが」「妹も」「雪まで」　など

② 述語…「**どうする**」「**どんなだ**」「**何だ**」にあたる言葉を「**述語**」といいます。
述語は、原則として文末の一文節です。（言葉の順序が入れかわっている場合もあるので、そういうときは文末にはきません。）
「悲しい」「小学生だ」　など

※ 主語も述語もそれぞれ省略される場合があります。
「（わたしは）学級委員に　立候補します。」→主語の省略
「おや、こんなところに　ねこが（いる）。」→述語の省略

※ 主語と述語の倒置（言葉の並べ方が逆になっていること）がある場合もあります。倒置がある場合は、普通の語順になおして考えましょう。

例　ほんとうに　いい子だね（述語）、　きみは（主語）。→ きみは　ほんとうに　いい子だね。

③ 主語と述語の見つけ方

例　冷たい　風が　はげしく　吹いた。

1　まず、文末の述語を見つけます。……「吹いた」
2　次に、「何が」吹いたのかと考え、前にもどってさがします。
3　吹いたのは「風」ですから、「風が」の文節が主語です。

◎ 修飾語

主語や述語、そのほかの文節と意味のうえで結びつき、それらの文節をくわしく説明している文節を「**修飾語**」といいます。また、修飾語によってくわしく説明されている文節を、「**被修飾語**」といいます。

修飾語　主語　**修飾語**　述語

例

赤い　風船が　空に　うかぶ。

① 修飾語の特徴

1　倒置がない場合、修飾語は必ず被修飾語の前にある。

2　一つの修飾語は一つの被修飾語に結びつくが、一つの被修飾語は、いくつかの修飾語を受けることができる。

② 修飾語が修飾している文節のさがし方

1　倒置がない場合、修飾語より後から被修飾語をさがす。

2　修飾語の後に続く文節に、一つずつ結びつけてみる。

3　それら二つの文節だけで意味がわかり、言い方としてもおかしくないものをさがす。

例

明日　わたしは　友だちと　京都に　行きます。

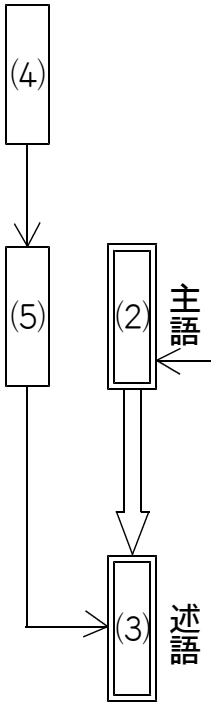
修飾語　×　×　×　○　**被修飾語**

「明日→わたしは」、「明日→友だちと」とさがしていくと、「明日→行きます」というつながりが、二つの文節だけで完結し、意味が通じます。「明日」の被修飾語は、「行きます」であることがわかりますね。

チャレンジ問題①

次の文の言葉どうしの関係を後のように表しました。言葉どうしのつながりがわかるように、□の中にふさわしいものを入れなさい。

①ぼくの　②兄は　③だれよりも　④早く　⑤走る。



解答らん

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

◆副詞

1 副詞とは

ものごとの動きの様子や、ある性質の程度などをくわしく説明する単語。

2 副詞の種類

① 状態の副詞…その動作・作用の状態をくわしく説明する。
② 程度の副詞…ものごとの性質や状態などの程度を表す。
③ 呼応の副詞…それを受ける文節に特別な言い方を要求する。

□いろいろな呼応の副詞□

① どうして・なぜ・はたして……か（疑問・反語）
例 どうして　食べないのか。
　 なぜ　笑うのか。

② おそらく・たぶん・さぞ……だろう（推量）
例 おそらく　来ないだろう。
　 たぶん　明日は　晴れよう。

③ たとえ・もし……ても・たら・なら（仮定）
例 たとえ　負けても　全力を　つくす。
　 もし　雨が　降ったら、遠足は　中止だ。

④ けっして・まったく・すこしも……ない（否定）
例 けっして　忘れない。
　 まったく　悪くない。

⑤ まさか・よもや……ないだろう・まい（否定＋推量）
例 まさか　失敗することはないだろう。
　 よもや　負けることはあるまい。

チャレンジ問題②

次の文の――線の言葉に注意して（　）にあてはまる言葉を後から選びなさい。

(1)（　）彼が犯人だろう。
(2)（　）何度怒られてもやめるつもりはない。
(3)（　）雷のように彼の怒鳴り声がひびいた。
(4)（　）許してください。
(5)（　）失敗することはあるまい。

① どうか　② まるで
③ たとえ　④ おそらく
⑤ まさか

解答らん

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
①	①	①	①	①
②	②	②	②	②
③	③	③	③	③
④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤